

実務実習（薬局）

責任者・コーディネーター	臨床薬剤学講座 工藤 賢三 教授		
担当講座・学科(分野)	臨床薬剤学講座、構造生物薬学講座、有機合成化学講座、天然物化学講座、衛生化学講座、機能生化学講座、細胞病態生物学講座、微生物薬品創薬学講座、生体防御学講座、分子細胞薬理学講座、創剤学講座、薬物代謝動態学講座、神経科学講座、分子生物薬学講座、臨床医化学講座、薬剤治療学講座		
対象学年	5	区分・時間数	実習 330 時間
期 間	通期		
単 位 数	10 単位		

・学習方針（講義概要等）

薬局の社会的役割と責任を理解し、地域医療に参画できるようになるために、保険調剤、医薬品などの供給・管理、情報提供、健康相談、医療機関や地域との関わりについての基本的な知識、技能、態度を調剤薬局において習得する。具体的には、薬局アイテムの管理と保存、情報のアクセスと活用、薬局調剤の実践（計数・計量調剤、鑑査、疑義照会、服薬指導、診療報酬計算など）、医療保険の仕組み、薬局カウンターでの業務、地域での薬剤師の役割などの項目について実践的に学ぶ。また、介護支援専門員や学校薬剤師の役割と活動状況についても知識を深める

・一般目標（GIO）

薬局の社会的役割と責任を理解し、地域医療に参画できるようになるために、保険調剤、医薬品などの供給・管理、情報提供、健康相談、医療機関や地域との関わりについての基本的な知識、技能、態度を修得する。実習ユニットは以下に示す通りである。

- (1) 薬局アイテムと管理
- (2) 情報のアクセスと活用
- (3) 薬局調剤を実践する
- (4) 薬局カウンターで学ぶ
- (5) 地域で活躍する薬剤師
- (6) 薬局業務を総合的に学ぶ

・到達目標（SBO）

1. 薬局で取り扱うアイテムが医療の中で果たす役割について説明できる。
2. 薬局で取り扱うアイテムの保健・衛生、生活の質の向上に果たす役割を説明できる。
3. 薬局アイテムの流通機構に係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる。
4. 代表的な薬局製剤・漢方製剤について概説できる。
5. 代表的な薬局製剤・漢方製剤を調製できる。
6. 医薬品の適正在庫とその意義を説明できる。
7. 納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目（使用期限、ロットなど）を列挙できる。
8. 薬局におけるアイテムの管理、配列の概要を把握し、実務を体験する。
9. 麻薬、向精神薬などの規制医薬品の取扱いについて説明できる。
10. 毒物、劇物の取扱いについて説明できる。
11. 法的な管理が義務付けられている医薬品を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する。
12. 医療の担い手が守るべき倫理規範を尊重する。
13. 職務上知り得た情報について守秘義務を守る。

14. 医薬品の基本情報源の種類と特徴を正しく理解し適切に選択できる。
15. 基本的な医薬品情報（警告、禁忌、効能、副作用、相互作用など）を収集できる。
16. 処方内容から得られる患者情報を的確に把握できる。
17. 薬歴簿から得られる患者情報を的確に把握できる。
18. 緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法を説明できる。
19. 問い合わせに対し、根拠に基づいた論理的な報告書を作成できる。
20. 医薬品・医療用具等安全性情報報告用紙に必要事項を記載できる。
21. 入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。
22. 入手した患者情報を必要に応じ、適正な手続きを経て他の医療従事者に提供できる。
23. 患者および医薬品に関連する情報の授受と共有の重要性を感じとる。
24. 保健調剤業務の全体の流れを理解し、処方せんの受付から調剤報酬の請求までの概要を説明できる。
25. 保健薬局として認定される条件を、薬局の設備と関連づけて具体的に説明できる。
26. 処方せんの形式および記載事項について説明できる。
27. 処方せん受付時の対応および注意事項について説明できる。
28. 初来局者への対応と初回質問表の利用について説明できる。
29. 初来局および再来局患者から収集すべき情報の内容について説明できる。
30. 処方せん受付時の対応ができる。
31. 生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。
32. 患者が自らすすんで話ができるように工夫する。
33. 患者との会話などを通じて、服薬上の問題点を把握できる。
34. 処方せんが正しく記載されていることを確認できる。
35. 処方せんに記載された処方薬の妥当性を、医薬品名、分量、用法、用量、薬物相互作用などの知識に基づいて判断できる。
36. 薬歴簿を参照して処方内容の妥当性を判断できる。
37. 疑義照会の行い方を身につける。
38. 疑義照会事例を通して、医療機関との連携、患者への対応をシミュレートする。
39. 薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙できる。
40. 処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる。
41. 錠剤、カプセル剤などの計数調剤ができる。
42. 代表的な医薬品の剤形を列挙できる。
43. 医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。
44. 代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。
45. 同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる。
46. 異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。
47. 代表的な同種・同効薬を列挙できる。
48. 代表的な医薬品を色・形、識別コードから識別できる。
49. 一回量（一包化）調剤を必要とするケースについて説明できる。
50. 一回量（一包化）調剤を実施できる。
51. 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。
52. 散剤、液剤などの計量調剤ができる。
53. 調剤機器の基本的取扱いができる。
54. 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤と取扱いができる。
55. 特別な注意を要する医薬品の取扱いを体験する。
56. 調剤された医薬品に対して鑑査の実務を体験する。
57. 適切な服薬指導を行うために患者から集める情報と伝える情報を予め把握できる。
58. 薬歴管理の意義と重要性を説明できる。
59. 薬歴簿の記載事項を列挙し、記入できる。
60. 薬歴簿の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。
61. 妊婦、小児、高齢者などへの服薬指導において、配慮すべき事項を列挙できる。
62. 患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる。
63. 自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる。
64. 指示通りに医薬品を使用するように適切な指導ができる。
65. 薬歴簿を活用した服薬指導ができる。

66. 患者向けの説明文書を使用した服薬指導ができる。
67. お薬手帳、健康手帳を使用した服薬指導ができる。
68. 患者に共感的態度で接する。
69. 患者との会話を通じて病態、服薬状況、服薬上の問題点などを把握できる。
70. 患者が必要とする情報を的確に把握し、適切に回答できる。
71. 患者との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集し、必要に応じて対処法を提案する。
72. 入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。
73. 調剤録の法的規制について説明できる。
74. 調剤録の記入事項について説明できる。
75. 調剤録の保管、管理方法、期間等について説明できる。
76. 調剤後の処方せんへの記入事項について説明できる。
77. 処方せんの保管、管理方法、期間等について説明できる。
78. 調剤報酬を算定し、調剤報酬明細書を作成できる。
79. 薬剤師の技術評価の対象について説明できる。
80. 代表的な医療事故訴訟あるいは調剤過誤事例について調査し、その原因について指導薬剤師と話し合う。
81. 名称あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる。
82. 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、抗糖尿病薬など）を列挙できる。
83. 調剤過誤を防止するために実際に工夫されている事項を列挙できる。
84. 調剤中に過誤が起こりやすいポイントについて討議する。
85. 過誤が生じたときの対応策を討議する。
86. インシデント、アクシデント報告の記載方法を説明できる。
87. かかりつけ薬局・薬剤師の役割について指導薬剤師と話し合う。
88. 患者、顧客に対して適切な態度で接する。
89. 疾病の予防および健康管理についてアドバイスできる。
90. 医師への受診勧告を適切に行うことができる。
91. セルフメディケーションのための一般的医薬品、医療用具、健康食品などを適切に選択供給できる。
92. 顧客からモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策について説明できる。
93. 顧客が自らすすんで話ができるように工夫する。
94. 顧客が必要とする情報を的確に把握する。
95. 顧客との会話を通して使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集できる。
96. 入手した情報を評価し、顧客に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。
97. 訪問薬剤管理指導業務について説明できる。
98. 在宅医療における医療廃棄物の取り扱いについて説明できる。
99. 薬剤師が在宅医療に関わることの意義を指導薬剤師と話し合う。
100. 病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。
101. 当該地域における休日、夜間診療と薬剤師の役割を説明できる。
102. 当該地域での居宅介護、介護支援専門員などの医療福祉活動の状況を把握できる。
103. 緊急災害時における当該薬局および薬剤師の役割について説明できる。
104. 学校薬剤師の職務を見聞し、その役割を説明できる。
105. 地域住民に対する医薬品の適正使用の啓発活動における薬剤師の役割を説明できる。
106. 麻薬・覚せい剤等薬物乱用防止運動における薬剤師の役割について説明できる。
107. 日用品に係る薬剤師の役割について説明できる。
108. 日用品に含まれる化学物質の危険性を列挙し、わかりやすく説明できる。
109. 誤飲、誤食による中毒および食中毒に対して適切なアドバイスができる。
110. 生活環境における消毒の概念について説明できる。
111. 話題性のある薬物および健康問題について、科学的にわかりやすく説明できる。
112. 薬局業務を総合的に実践する。
113. 患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を感じとる。
114. 薬が病気の治癒、進行防止を通して、病気の予後と QOL の改善に貢献していることを感じとる。

・実習日程

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	実習内容
					講義日程は特記事項に記載

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	治療薬マニュアル 2013	高久 史磨 監修	医学書院	2013
参	モデル・コアカリキュラムに沿った わかりやすい薬局実務実習テキスト 第2版	実務実習テキスト作成研究会編	じほう	2010
参	薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト 2012年版	日本病院薬剤師会近畿ブロック、日本薬剤師会大阪・近畿ブロック	じほう	2012

・成績評価方法

実習施設での評価、レポート（実習日誌・週報）・発表会の評価、出欠、確認試験などから総合的に判断する。
--

・特記事項・その他

<p>実習日程</p> <p>I期 グループA：平成25年5月13日（月）～7月28日（日）</p> <p>II期 グループB：平成25年9月2日（月）～11月17日（日）</p> <p>III期 グループC：平成26年1月6日（月）～3月23日（日）</p>
--

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
	各実習施設備え付けの薬剤業務関連機器		